

第3回文京区アカデミー推進協議会

日時：平成26年9月19日（金）

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター21階

2101・2102会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

平成26年度 第3回 文京区アカデミー推進協議会 会議録

(敬称略)

「委員」

会長 水越 伸
副会長 久松 佳彰
委員 青木 和浩
委員 野口 洋平
委員 柳澤 愈
委員 塩見 美奈子
委員 井上 充代
委員 田辺 武之
委員 高澤 芳郎
委員 牧野 恒良
委員 荒木 時雄
委員 森岡 隆
委員 小林 博
委員 増田 純
委員 金坂 吉雅
委員 黒木 美芳
委員 黒田 千恵子
委員 小野澤 勝美

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課長 山崎 克己
アカデミー推進部観光・国際担当課長 矢島 孝幸
アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック
推進担当課長 細矢 剛史
アカデミー推進部スポーツ振興課長 古矢 昭夫

※以下、「協議会」「推進計画」とは、それぞれ「文京区アカデミー推進協議会」「文京区アカデミー推進計画」のことをいう。

○事務局：出欠状況の確認。

○会長：開会の挨拶。本日の資料の説明を事務局からお願いします。

○事務局：(資料の確認)「平成26年度アカデミー推進計画進行管理表」は、分野ごとに開催した分科会での意見等をもとに、事務局側で評価表案を作成したものです。「第6章 分野横断型プロジェクト《25年度実績》」は、第1回の資料でしたが、再度、分野別に整理したもので、ともに事前配布しました。

【資料第2号】分野別横断プロジェクト 評価シート (案)

【資料第3号】平成27年度 重点施策一覧表

【資料第4号】文京区アカデミー推進計画の改定について

【資料第5号】文京区アカデミー推進計画の改定に向けたアンケート調査

(本日の議論の流れ) 各分科会で議論された内容について、学識経験者の皆様に報告をしていただいたうえで、評価表の記載内容について委員の皆様からご意見をいただき、調整をしていきたいと思っております。次に、第1回の協議会において議論がありました、分野別横断プロジェクトについて再度確認します。そして、平成27年度の重点施策について説明させていただき、最後にアカデミー推進計画の改定について報告させていただきたいと思っております。それでは、これより議事に入りますので、水越会長に進行をお願いします。

○会長：重点施策とはどのようなものでしょうか。

○事務局：区の予算編成の際に、来年度力を入れたい新規事業については、区長に対してアカデミー推進部からの案をプレゼンテーションして、認められたものは既定以外に予算が付くことになっています。27年度の重点は、9事業を挙げているが、結果についてはこれから決定します。ボランティアの育成事業等については、協議会の意見を踏まえている部分もございます。

○会長：重点については、またこの後詳しくお願いしたいと思います。

まずは、アカデミー推進計画進行管理表の各分野について検討していき、本日は管理表の4の「分野別評価」を完成させていきます。今年、委員が入れ替わってはいますが、昨年度の評価については、24年度評価にあります。先日の分科会で話したものが、25年度評価にあり、今回はその文言について見ていきます。

○事務局：生涯学習から、10分程度で1つの分野のペースでお願いします。分科会は出席してない方もいるので、先生から当日どんな話があったかの簡単なまとめをしたうえで、お願いしたいと思います。

○会長：進行管理表の形式は同じですが、中身は違っています。分野別の目標に合わせて1ページずつになっています。生涯学習の1ページ目では、伝統もあるし充実もしていて、区が主催から区民の方が自主的に行っているものまで、分厚い内容であるとの評価でした。その点に関しては個別の問題ないし、現状の実践自体はおおむね評価できる反面、アカデミー推進計画の目標や課題に照らした場合に、いくつかの課題があると考えられます。たくさん事業があるものについて、どのように評価するかは、委員の意見にばらつきがありました。人気のあるものをやっつけていけばいいのか、社会的に意義がある地味でも掘り下げたものが大事なのか。あるいは、ある種の方向があったほうがいいのか、いろいろな方向

にまんべんなくやったほうがいいのか。もともとは、なかなか講座に出られない方についての掘り起こしについて計画にあるのに、実際は掘り起こしができていないのではないか、というような意見も出ました。

次に2ページ目で、ここでは図書館や様々な体制作りについて議論しました。現状でサービスはしっかりなされている反面、参加できない方へのアプローチがまだ十分ではないのではないのでしょうか。あるいは、アンケートの取り方がもう少し吟味されてもいいのではないか、という意見もありました。

3ページ目は、区民等の主体的な活動への支援について、ある程度新しいものを出して行く必要があるだろうという事と、ある程度区の中で自発的に芽生えているものを伸ばしていく必要があるだろうという両方が意見としてありました。新しいものを伸ばそうとすると前文的なものが十分に回帰されない場合もあるし、逆に受講者が固定していると、新規の方が入れないものもあるだろうとか、そのあたりをどう見るのかいろいろ議論されました。それから、他との分野や各区との協働を考えていくことが、新機軸を出すのには重要だろうという意見もありました。

生涯学習について、出席された委員の皆さん、いかがでしょうか。

○委員：質問ですが、1ページめの3つ目「・」の「方向性」とは、どういうものでしょうか。

○会長：これを少し補足すると、ある傾向を持たせているものではなく、計画の①～②にあるような事柄がある種の方向性と言えます。端的に言うと、今までやっていたからとか、人気があるからやるという事ではなくて、俯瞰的に見たときに、やって来た事や人気があるから続けるという事ではなく、この方針に照らして見ているかどうかという意味です。方向性と言う言い方も、検討した方がいいのではないのでしょうか。

○委員：ありがとうございます。

○会長：では次にスポーツに移ります。

○委員：次は、スポーツです。4ページめでは、ニュースポーツに関する事業が比較的良好にできているという評価がありました。推進計画には載っていないものの、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する話題が多く出てきました。5ページ目、スポーツを楽しむ環境づくりについては、区内の整備がきちんとされていると言えます。連携については、昨年度と同様に改善できていません。落し物・忘れ物の処理方法等、より具体的な連携不足の例も出てきました。6ページ目については、従来通りプロ野球やサッカー協会等との連携をしています。地域クラブスポーツの派遣についても着手しており、充実していると言えます。7ページ目の指導者の育成について、各施設には指定管理者の職員が入ってきちんとやっている一方で、介護や指導については改善の余地があります。文京区ではスポーツ交流ひろばが歴史もあり充実しているので、若者と協働してやっていくべきだと言えます。全般的に言えば、障害者スポーツに着手しているという印象がありました。補足があればお願いします。

- 会長：ありがとうございました。
- 委員：表記について。4 ページめの「健常者と障害者」という表記があるが、人権的な面から見て問題があれば、文言を変える必要があるのではないのでしょうか。
- 事務局：事務局の方で検討させていただき、必要があれば置き換える等させていただきます。
- 会長：検討していただければと思います。
- 事務局：従来は違和感なく使われていたものの、ここ数年来の流れを汲めるような表記にする方がいいのではないのでしょうか。
- 会長：言葉狩りばかりをすると中身がなくなってしまう点には注意していただきたいと思います。
- 会長：5 ページめ、学校開放について。3 項目めの最後の「学校中心の開放となってしまう」の文脈がわかりづらく、何がいけないのかよく分からないと思います。
- 事務局：地域開放の利用に制限があったり、なかなか協力が頂けないことかと。
- 会長：要するに、学校の都合でやることになるので、地域に貸し出しできないこともあるということでしょうか。
- 事務局：我々としてはそういうことがないように努めてはいます。
- 会長：例えば、「学校側の観点に立った開放」にする等は。
- 委員：「利用者ニーズとのアンマッチ」という具合に記載し、わかりやすく伝えないと。
- 委員：文科省からは通達で謳っているが、現状はそうではないので、それをどのように解決していくのでしょうか。
- 事務局：意見をいただいて、引き続き応援をお願いします。
- 会長：ニュースポーツの内容について。スポーツの方はわかりでしょうか。
- 事務局：一般の人から見ると、何がニュースポーツでそうでないかはわかりにくいのかもかもしれません。我々スポーツ関係者はイメージが湧いてきます。
- 事務局：欄が空いているので、ニュースポーツの説明書きをしてはどうでしょうか。
- 会長：これで関係者の方が分かればいいとは思いますが。
- 事務局：せっかく枠が空いているので、説明を加える形でいいかと思います。
- 委員：ニュースポーツ「事業」は、おかしいと思います。
- 委員：区民には宣伝しているのでしょうか。
- 事務局：ちらしには、「ボッチャ（ニュースポーツ）」など説明を加えているが、それを意識して見ない方もいます。やはり、ニュースポーツとは何かと説明書きを入れないと分かりにくいかも知れません。
- 委員：老人の方にもできます。といった内容の説明が欲しいところです。ニュースポーツという言葉だけだと、老人の方のイメージが無いので。
- 事務局：幅広い方を対象にしています。体に負荷をかけずにできるという位置づけです。
- 会長：ニュースポーツと聞くと、知らない人には若い人向けというイメージを持たれる

ので、説明を付けた方がいいと考えます。

○会長：次は文化芸術です。

まず、8ページの所では、生涯学習と重なる性格があるが、いろいろなものが充実している事は間違いがなく、個別の実践に関しては非常によくやっている、大変な手間もかけているという基本的には良い評価があったうえでの文化芸術の中身であると思います。よくやっているが、なかなか広がらない。固定客が多くなっているのをどうするかが、課題であると8ページ最後に書いてあります。9ページについては、個別にはしっかり出来ています。広報紙スクエアの評価も高いと25年度でも言われていましたが、全体にはどうなっているのかが俯瞰的に見えないところです。今まで経験のある方は分かると思いますが、初めて来た人が、全体がどうなっていて、自分がどういう物を見て、どこに入れるかを見られるような形になっていないという意見でした。

それから、ホームページの情報を一元化するというのはなるべく言わない方がいいと思います。情報の一元化は、90年代のやり方で、情報に印だけつけておいて、後で検索できるようにして、システム構築をしても陳腐化しないようにした方がいいと述べた事が書かれています。情報の一元化という言葉は、役所の常套句になっていて、それを削ることは難しいのかもしれませんが、この分野の専門家として、繰り返し言っておきたいと思います。

10ページめは、文化や歴史を未来に伝える仕組みづくりですが、伝統的なものを伝統的にやっていると、固定客で利用客が減っていきます。伝統的なものを含めた文化芸術をより多くの人に知ってもらう為の新機軸が必要です。単にエンターテイメント的なものに振るだけではない、やり方があるのではないか、という意見もありました。伝統芸能の愛好者が限られていて、参加者が固定しているという言い方でない方が良いと思います。伝統芸能が一般的にそうではなくて、伝統芸能をやる見せ方や、講座等々の持ち方が固定化しているから、参加者が限られて来ています。伝統芸能自体が、固定的なお客しか引っ張れないという事ではないのです。

10ページの評価は、5つ項目があるが、もう少しまとめた、総括的な文章にした方がいいと考えます。他にご意見はありますか。

○委員：「表彰の仕方」とか、「若い世代」とはどういう意味でしたか。

○事務局：秋の文化祭で書道展や絵画展があるが、若い方の参加を増やしたいというのがあります。少しずつ増えてはいるが。今の基準では表彰に及ばないものを奨励賞にするとか、若い人の意欲を引き出すという意味です。表記は検討します。

○会長：賞の出し方が固定化しているし、数も少ないです。それに新しいものを加えていきます。

○委員：学生に評価してもらうなど、学生を入れていくと、新しいものが生まれると思います。

○会長：あえて若い世代に提案してもらうという文言を取り、賞の出し方に新機軸をもた

らす目の向け方を持たせるとい事ではないでしょうか。

○副会長：10ページに文京区史がありますが、ここに入るものなのでしょうか。

○事務局：文化や歴史を伝える仕組みづくりという事で、区史も文化を後世に伝えるという趣旨で、こちらに入れていきます。

○会長：区史自体は非常に重要なもので、未来に伝えるためのひとつのメニューであるから、こちらにあっても良いのではないのでしょうか。

○委員：事業の概要に「委託業者の活用」とあるが、もう少し「区民」という文言を入れたらいいのではないのでしょうか。

○事務局：区民ボランティアを募集して実際に一緒をお願いしてやって行く所もあるので、区民の人と一緒に作って行くという趣旨でやっています。最後の部分に委託業者という言葉があるので、強く見えてしまいます。その部分は変更します。

委託は最後の印刷・製本など業務の補佐的な部分です。執筆も区内大学の先生にお願いするし、写真を集めるなど区民ボランティアの方達に大勢お願いする予定です。

○会長：この部分だけ見ると、全国の編纂を専門にしているコンサルにお願いするように見えるが、編集・製本の部分の委託という事ですね。

○事務局：ある程度、編集も業者をお願いする部分もあるが、主体はあくまでも区民と区で、編纂委員会という形で基本的な方向性を出したうえで行います。ほとんど執筆も編纂も区でやります。

○委員：8年ほど前に、ふるさと歴史館で「私の文京」の写真集の編纂を友の会の会員だけでやりました。相当珍しい写真を集めたが、出来上がった時にもっと早く教えてくれればという声が多く別の所からあったのです。写真を集めているという情報が流れてこないで、貴重な写真を集めるために、もっと広く区民に周知してほしいです。

○事務局：現在区報に載せて募集をしています。委員の皆さん方も、知り合いの方などに話していただければありがたいです。

○委員：年に何回か募集を出したらいいのでは。

○会長：それは大変なことだと思います。

他に何かあれば、また戻ってきますが、次の観光に行きます。

○委員：当日は、担当課長や事業担当者から緻密な説明があり、また当日出席された委員の皆さんにも丁寧に議論いただきました。継続事業が多いと、課題も継続してあるはずなので、その点を改めて指摘しなくてはと思う所だが、そこで重複を避けて新たな意見が出ました。象徴的なのは、例えば13ページのタブレット端末等の活用など、新しいご意見をいただき、昨年度と重複しない意見が加わったのは良かったのが1点です。

また「観光ガイドおさんぽくん」が、非常に多くの方の手にとって頂いたという実績が事務局からもたらされ、それは素晴らしいという事で、新しい情報について評価できたのは良かったというのが、すべての項目についての共通点でした。文言の表記の調整はありますが、それぞれの項目で、新しい意見が出たのは良かったと思います。ただし、事業が数

年前から継続しているものが非常に多く、もちろん少しずつ工夫をしているとは思いますが、継続していれば、継続して同じ課題がある。その点は、なかなか解決できないという印象もあります。

また、12ページにもあるが、生涯学習の部署に観光があるのは、全国的には非常に珍しいと言えます。一般的には産業振興や経済部門にぶら下がっています。ほかの地方都市では、観光に関連する事業・施策というのは、商店街をどうするか？お祭りの集客をどうするか？などの経済政策としての観光、街おこしとしての観光に力を入れているので、毎年新規事業があつて、入れ替わりが激しいのが現状です。毎年変更をかけながらやっているの、それに比べると、施策・事業が固定的になっているのが心配というのが全体としての印象です。

そういった意味で、14ページの、文京区は、観光産業そのものが、経済を変えるというタイプではないと言えます。観光というよりは、例えば、オフィスビル・事務所の価値を高める、知名度を上げて、文京区で働いていることがステイタスになるという、いわゆるシティーセールスというが、街の認知度や好感度を上げて行くというのが非常に重要になると思います。観光と言うと限定的になるが、街を知っていただく、好感を持ってもらうという事に取り組む必要があります。担当部署の人員や予算だとか、もしくは生涯学習の部署にあるという点での制限というか、もちろん他部署と連携はしていると思うが、他の自治体とは体制が違います。観光に関する国などの補助金に手を挙げることにより、新規事業に取り組むきっかけになるのではないかという事を最後に議論しました。

24年度の評価内容をもう一度繰り返した方がいいかなと思う部分も多いというのが、全体としての印象です。他の方の委員さんのご意見をお願いします。

○委員：12ページの「文京花の五大まつり」の指標達成度がCというのは、どういう意味でしょうか。

○事務局：事務事業評価というシステムで評価したもの、お祭りの来場者が指標を達成できていたかという事で、指標は、過去3年間の平均値から伸び率を出して、毎年何%アップという目標を出しているが、どうしてもお祭りなので、天気などの影響でこの年は来場者が達成できなかったという意味です。

○委員：文京区内に残っている古い建物、明治時代のものは保存されているが、昭和初期の建物などを、区のほうで応援して残す方向にしてほしいと思います。古い建物を維持するのは大変で、保護文化財に指定されていても、取り壊されたりして、次に来たら無くなっていたりと、リピーターに繋がらない。それを残して点と点を結んで有効活用すれば、散歩コース等が出来たりできるのではないのでしょうか。

○事務局：今のお話のような類似事業を観光施策として打ち出している。旧伊勢屋の活用など。ただ、民民でやられている中に、区が入りづらいという点もあるが、そのような視点をもちながらやって行くつもりです。

○会長：生涯学習や文化芸術は、たくさんやっていると言える。スポーツや観光は文京区

としての特徴がクリアで言い易い。総括の評価で、そのような特徴を加えていただくと、方向性が見えやすくいいのではないのでしょうか。

評価の文章を24年度評価のように、もう少し密度を濃くし、例えばAとBの文章をまとめるなどの校正をして、さらに専門用語の補足を入れて欲しいと思います。

○委員：誤解の無いようにもう一度言わせて頂くと、文京区では観光資源がたくさんあり、多くの方が訪れています。現在の区の経済が、それに強く依存しているわけではなく、観光も受け入れながら、他の産業がきちんとあり、オフィスビルもたくさん入居者がいて、活気のある区であるが、そのような中で観光が資源もあってやっているというのは、ある意味理想的なことだと言えます。最後、観光資源に頼らざるを得ないという事は、ある意味末期的だが、そうではないので、決してマイナスでない、いい意味で申し上げています。もう一つは、昭和初期の家などを保存して行くなど、まさに、他の市町村では出来ない、文化財の価値を前提としています。つまり観光的、文化財的に保存していくというのは、二重の力が加わることによって評価が高まる事があると言えます。経済部門に観光がぶら下がっていると、道路を拡幅することを優先する話になるので、そのようなものは潰してしまえという議論になってしまいます。そういった意味で、文京区は、生涯学習・文化芸術と同じセクションでやっているという利点を使って、例えば11ページにあるような、観光資源は沢山あってこれ以上発掘しなくていいのではないかとと言われるくらいですが、発掘のされ方が偏っていたのではないかとというのが、昨年から続いている議論です。由緒・歴史のある建物は残そうと言うのですが、昭和初期の一般の方の建物も、ストーリーが無いと価値がないと思われそうですが、ある人には価値があるとか、若しくは若者の目線が無いとかという様に、発掘の仕方は相変わらず工夫して行かなくてはいけないと思います。意見にあったように、壊されてからでは遅いのです。そういった意味で、せっかくアカデミー推進部の中にあることを生かして、未来につないでいくのは何なのかと観光や文化芸術、いろんな視点から検討するべきだ、というのが昨年来から一貫して言われている事です。

○会長：私もそのように思います。

では次に、国際交流をお願いします。

○副会長：「国際理解すすめる機会づくり」最初の項目は、窓口の強化ということです。国際交流については24年度の評価プラスオリンピック・パラリンピックについての評価ということで、重層的な評価になっています。去年度の評価を出していただいたことはよかったですと思います。16ページ「国際交流の機会づくり」こちらもオリンピックを踏まえ、バックアップできるかということである。地域別にいえばヨーロッパよりアジアではないか、なかなか難しいところです。17頁「外国人が快適に暮らせる環境づくり」住んでいる外国人の方が少ない、ただ、昼間にいる留学生が多い。「寝る＝暮らす」ともいえるが、「昼間滞在する＝暮らす」ともいえます。参加された方それ以外の方についてもコメントをお願いします。

○事務局：17ページの一番上の文言「23区内で文京区は…問題も一番少ない」という

のは、外国人が多いと問題が多いと捉えられかねないので、訂正した方がよいのではないのでしょうか。

○事務局：議事録的になってしまっている部分があります。齟齬が生じている部分もありますが、学経の皆様と協力しながら今後直していきます。

○会長：昨年も出てきたのは、「直接的なわかりやすい言い方をしよう」ということです。

○委員：「人員が少なく、最低限の布陣」という言葉を、よりポジティブに表現した方がよいのではないのでしょうか。

○事務局：アカデミー推進部ができる前は、組織の中に国際や観光の部署がなく、総務係や経済課で担当していましたが、人員を組みました。実態として、急速に事業内容が膨らんできています。区全体を見たときに職員を減らされているという事実もあります。

○委員：役所の人だけでやろうという気持ちが伝わってきます。

○会長：我々の委員会は第三者委員会なので、人員少ないというのは、少ないといった方が区のためになるのではないのでしょうか。人が少なすぎてひどいと思います。社会連携についても、社会連携をする担当の人がいないため、できない。人員が少ないのは、国際交流に限らないと言えます。

○会長：以上で5項目を終了いたします。引っかかる文言があれば。

○委員：観光のところで、最後の項目で補助金の問題で、「体制的な問題」とはどのようなものでしょうか。初めての方はわかりづらいのではないかと。

○委員：最低限の布陣ということだと思います。

○会長：その他事務局からありますか。言われた通り、趣旨を踏まえて文言を調整させていただきたいと思います。

○委員：文言の語尾をパターン化して、同じ重さでまとめるべき。

○会長：分野別横断プロジェクトに関しては、まとまっているので、目を通していただくと同時に、事務局から説明を。

○事務局：第一回で出された意見をまとめたもので、これでよろしいかというところでご意見をいただければと思います。統一した表現にさせていただければ。

○会長：分野別横断プロジェクトはどこが担当でしょうか。

○事務局：国体だとスポーツ、慶喜だと推進課。

○会長：当日話されたことはこんな感じでよいのでは。国際交流や観光はいろんなものとクロスしています。文化芸術・スポーツは課でやれることだと思いますが、横断プロジェクトは他と重なりやすいところが運営していくというのはどうでしょうか。

○事務局：観光は国体と慶喜両方に関連しています。

○会長：今度は佐藤春夫か。

○事務局：去年ほどは大規模にやらない。

○委員：歴史館の関連講座には120人応募がありました。

○会長：分野横断別の参加者一覧も出ています。こちらも整理していただければと思いま

す。

○会長：ここで一旦文言に関しては検討し終わったということで、次に、アンケートと重点施策について。

○事務局：では、重点施策から。

区予算編成の中で、新しいことをやりたいと考えた場合に部として出せるものです。区長にプレゼンテーションを行い、認められた分だけ経費をつけてもらえます。この提案につきましては、評議会での意見や評価を織り交ぜて検討しました。

(事業概要の説明。)

○会長：スポーツセンターを建て直すということは。

○事務局：全面リニューアルを予定しています。

○会長：語学ボランティアについては、日本人が外国人をもてなすように、留学生が自国の観光客をもてなすなども考えられます。

○会長：改定とアンケートについて。

○事務局：資料第4号の説明。

○事務局：資料第5号の説明。

○会長：次のアカデミー推進計画の改定に関わってくるが、事前に日程を紹介してもらいました。来年度は改定という比較的大きいことがあります。

○副会長：来年度の最初にも、今年度の評価に対する変化について聞いてみたいです。積み重ねでやって来た事が分かります。出来た、出来なかったという所の区側の見解を、お願いします。

○会長：同意見です。また、来年は委員のメンバーも変わるかも知れませんが、団体の代表というよりは、総合的に見た方がいいと思います。区民として関わる。すべてのことは絡み合っているのです、分野に関係なしにやったほうがかえっていいのでは。

アンケートについては、区に住んでいる外国人の方の意見をインタビューなどで聞いた方がいいと思います。日本人が良いと思っている事と、実際は違っていたりするものです。これは参考までに。

○委員：かなり設問数が多い印象があります。時間が掛かる場合、回答者の年齢が偏る懸念があるという印象が経験上であると申し上げておきます。

○委員：この計画の改定に来年は関わるという事でしょうか。確認だけお願いします。

○事務局：そうです。2年間の委嘱という事なので、今年度は評価で来年度は改定ということになります。

○委員：改定という事で、観光ビジョンとの関係は。

○事務局：区としての方針が出ていない。観光ビジョンは平成21年に10年計画として策定したが、途中の5年経つところで見直す状況になっていない。ただ、アカデミー推進計画とボリュームは小さいがダブっている所があるので、この計画でも読み取れるのではと感じています。

○委員：ダブっているとは。

○事務局：重なっている部分があるので、こちらの改定で、例えばオリンピック・パラリンピックの部分は当初の観光ビジョンには無かったので、推進計画で読み込んでいくかを検討して行かなくてはと思います。

○会長：10年は長いので、この計画が改定の役割を持つという事でしょうか。

○事務局：区の基本構想と照らし合わせ、現状をとらえて落とし込むのが新しい推進計画、観光ビジョンとの矛盾を含めて検討していただければと考えています。

○委員：先ほどのアンケートの回収率が心配です。設問が多ければ多いほど回収率は下がります。

○事務局：記念品を入れるなど、工夫をしたので、なんとか回収率を上げて行きたいところ です。

○会長：そろそろ時間なので、まとめたいと思いますが、昨年来と比べると、皆さんから分野を超えた意見を頂けて、今年度いい形でこの会を進められたと思います。皆さんに感謝したいと思います。任期が2年なので、来年も継続になる。来年は、さらにメンバーが増えます。5年ごとの改定版を来年度作成し、評価もすることになります。区の方との信頼関係で計画の案を作成して行くメンバーです。そして評価も行っていきます。いわば最初と最後の両方を見させてもらうということです。ある意味やりがいもあります。忌憚りの無い意見をもらいたいと思います。来年度もこのように進めていきたいので、これからもよろしくお願いします。